

輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

コンテナ船状況

海上運賃については大きな動きはなく、4月以降の値下げは今のところ無さそうです。今後の原油価格次第ですが、これ以上の値下げは期待できそうにはない状況です。先月同様に、世界経済の悪化により北米への輸出が激減したため、日本を含むアジア各地で空コンテナが滞留しつつあり、各船会社とも定期航路とスペースを削減してきたため、船腹はタイトとなっています。また、北米でのコンテナの確保も難しく、船積みの遅延も目立つようになりました。特にスタンダードコンテナ（高さ8.6フィート=約2.6m）よりも、ハイキューブコンテナ（高さ9.6フィート=約2.9m）が不足しています。

インペリアルバレーの水問題

スーダンとクレイングラスの主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレー地区では、給水制限が正式に決定され、農業用水の割り当てを前年対比で15%ほど削減することとなりました。牧草の作付面積が減ることも予想されますが、サプライヤーの繰越在庫が多い見込みであることと、輸出向けの需要減も手伝って、数量としては体勢には影響が無いものと思われます。

ビートパルプ

<米国産>

09年産の作付けは4月後半から始まります。作付面積は08年産に比べて若干増加の見込みですが、最も大幅な増加が予想される地域はアイダホ州を中心とする西地区になる模様です。

また、米国では08年産が作付け初年度だったGMO種子の作付け率は、09年産では全米平均で90%を超える見込みです。その影響で、作付け時期の天候が良ければ、単収も平年を上回ることが予想されます。

<中国産>

韓国における中国産ビートパルプ輸入実績によると、2月の輸入数量は10, 1

67トンでした。価格高騰と通貨ウォンの急落から、輸入数量の大幅減少が懸念されていますが、韓国の平均月間需要と言われる10,000トンは引続き維持しています。今後の韓国向け需要は、日本向け供給余力を占う意味でも注意が必要です。

アルファルファヘイ

<ワシントン産>

引き続き各サプライヤーの荷動きは思わしくないままです。積出港のコンテナ取扱量も昨年後半以降は減少傾向で、1月の統計によるとシアトル港で6%減少、タコマ港で16%減少となっています。

09年産の作付面積は、昨年小麦に転作された圃場が一部アルファルファに戻る見込みで、10-20%程度の増加が予想されています。加えて米国乳価下落による国内需要の落込みが予想され、09年産は需給のバランスにより、08年産の価格より下落すると考えられています。

<カリフォルニア産>

インペリアルバレーの一部では1番刈が終盤を迎えており、4月からは2番刈が始まる見込みです。この時期に収穫されるものは、例年通り雑草混入が一部で見受けられます。09年産はスタートしていますが、08年産の在庫も多いことから、引合いは少ないようです。3/15時点のエーカーレッジレポートによると130,768

Alfalfa	2/15 時点	3/15 時点
2006	150,011	148,390
2007	131,225	129,923
2008	113,740	114,392
2009	130,156	130,768
前年比(増減)	16,416	16,376
前年比(%)	114%	114%

エーカーとなり、前年対比で14%増加となっています。

チモシー

<米国産>

引き続き各サプライヤーとも荷動きは順調で、特に酪農向けプレミアム品の出荷が順調なようです。対して2番刈は荷動きが少し悪く、現地在庫は多いようです。

09年産の作付面積は、コロンビアベースンで15-25%程度の減少、エレンズバーグで若干の減少となると予想されており、総じて生産量は減少すると予測されます。

<カナダ産>

引き続き各サプライヤーとも荷動きは順調です。08年産のスタート当初は高値だったために、輸入量は大きな落ち込みを見せておりましたが、通貨カナダドル安による価格下落により、需要も戻り、船積みは徐々に回復してきたようです。

小麦やカノーラ等の市況も悪いために生産農家は今後何を作ったら儲かるか、判断に迷っている様子なので、09年産の作付け動向については、まだはっきりとは分からない状況です。

スーダン

早蒔きのスーダンの作付けが一部で始まりました。現在各サプライヤーの荷動きは悪く、現地繰越在庫は多い見込みで、09年産の作付けには慎重な生産農家も多く、作付面積は大幅に減少すると考えられています。小麦刈取り後に生産する遅蒔き（通称 アフターウィート）のスーダンの作付けも大幅に減少すると予想され、スーダン全体で作付面積は50%程度の減少と、現地では予想されています。

一方、小麦の作付面積は、3/15時点のエーカレッジレポートによると105,690エーカー（前年同月は108,264エーカー）となっており、前年対比98%でほぼ同水準で推移しています。



インペリアルバレーで生育中の小麦

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

3/15時点のエーカーレッジレポートによると14,046エーカーとなっており、前年対比で5%の減少となっています。今後は更に作付けが減り、10%の減少になるとも予想されています。韓国向けの荷動きは回復しつつあるようです。

09年産のクレイングラスの作付け・生産動向については、輸出向け市場の需要を睨みながらの展開になると思われます。

Klein Grass	2/15 時点	3/15 時点
2006	13,580	13,451
2007	15,212	15,130
2008	14,801	17,450
2009	14,141	14,046
前年比(増減)	-660	-704
前年比(%)	96%	95%

バミューダ

荷動きはやや悪くなり、現地在庫は余裕があるようです。3/15時点のエーカーレッジレポートによると51,028エーカーとなっており、前年対比で9%の減少となっています。

09年産のバミューダの生産量については、25～50%の減少が見込まれています。

Bermuda	2/15 時点	3/15 時点
2006	62,198	62,101
2007	63,279	64,008
2008	56,269	55,856
2009	51,482	51,028
前年比(増減)	-4,787	-4,828
前年比(%)	91%	91%

ストロー類

2月のオレゴン州のストロー輸出実績は前年対比75%にまで落ち込んでおります。前月対比でみると韓国向けが増えており、ストロー輸入数量では日本の輸入数量を上回っています。

09年産のストロー類の作付け動向については、種子の需要減と価格下落が原因で、ライグラスは20%、フェスクは10～20%減少すると予想されています。

オレゴン州ストロー輸出実績 (MT)	2008年2月	2009年2月	増減
ライグラス	25,501	14,447	56%
アニュアルライグラス	5,243	4,842	92%
フェスキュー	27,343	22,506	82%
オーチャード	2,152	771	36%
ベントグラス	404	574	142%
合計	60,642	45,441	75%

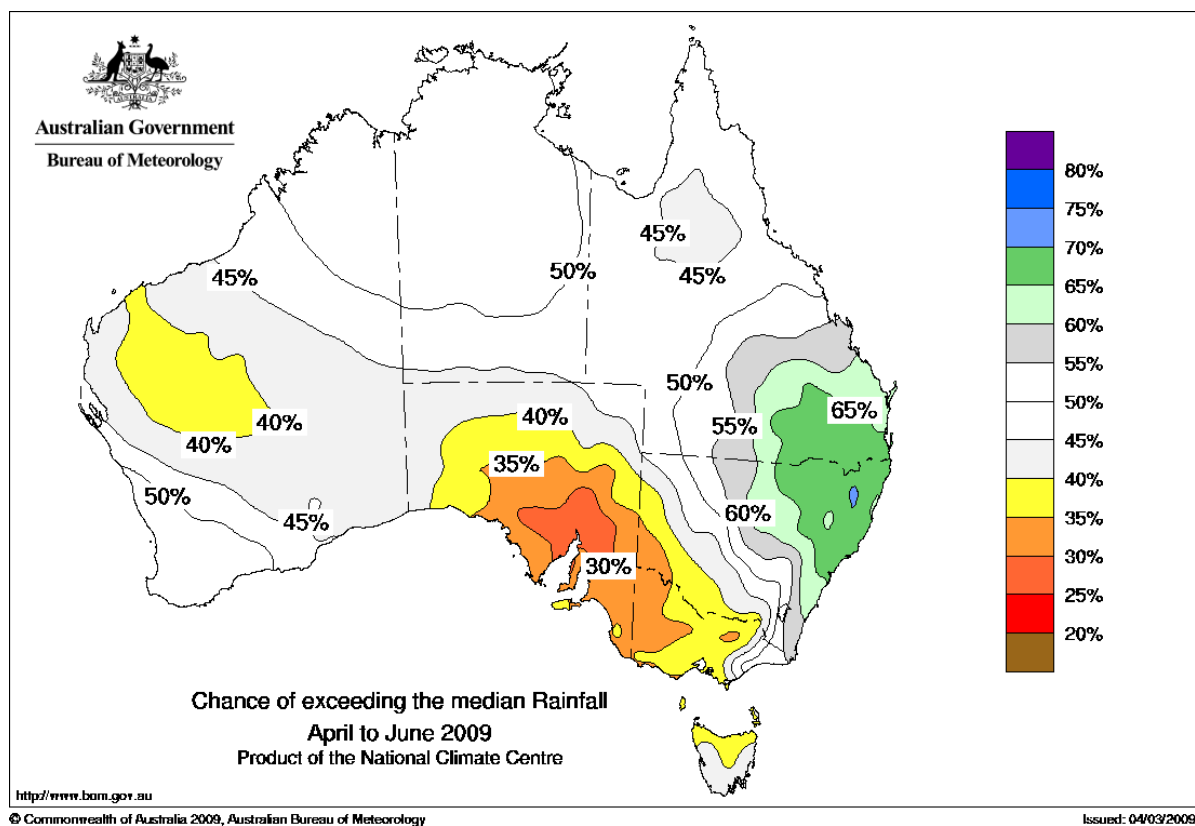
オレゴン州ストロー輸出実績(MT) 国別	2008年1月	2009年2月	増減
日本	24,922	20,123	81%
韓国	19,355	22,514	116%
台湾	1,164	503	43%
合計	45,441	43,140	95%

*ライグラス/アニュアルライグラス/フェスキュー/オーチャード/ベントグラス合計

豪州産オーツハイ

08年産のスタートと同時に、現地の船積みは順調に推移しているようです。プレミアムからミドルグレードの需要が中心で、今年多く発生している雨当たりのローグレードは荷動きがあまり良くありませんでしたが、徐々に日本向けにも出荷が増えているようです。通貨豪州ドルは一時期よりも高いレベルにあり、更なる価格下落については現状では難しそうです。

4月後半から始まる09年産の作付け動向については、昨年高騰したカノーラと大麦の市況が落ち着いてきたため、生産農家のオーツハイの生産意欲は変わらず、ほぼ平年並みと予想されます。ただし、長期予想では降雨不足が懸念され、今後の動向は天候次第となっております。以下の表は、豪州気象局の4-6月中期降雨予想で、過去の平均降雨量比で表されています。



以上